

2011年7月28日

日本皮膚科学会 会員の先生方へ

社団法人 日本皮膚科学会

非定型的な皮疹と臨床症状をとる「手足口病」の流行

今年5月頃から、重症の皮疹・粘膜疹をとる「手足口病」が大流行しています。すでにご経験の先生方も多いと思いますが、診療のお役に立てていただきたく症状の特徴や、検査データについてお知らせいたします。ただし、今後、新たに判明する事実もあると思いますので、あくまで速報であり、最終結論ではありませんのでご了承ください。

1. 臨床症状の特徴



- 1) 小児のみならず、成人にも発症。
成人例は小児よりも重症。
- 2) 激しい口腔内病変
時にアフタ様口内炎で摂食困難。
- 3) 手足の大型水疱形成
通常の手足口病よりも大きく、
水疱型多形紅斑や水疱症に類似。
- 4) 発熱などの全身症状を伴うことが多い。
- 5) 治療は対症療法しかありません。
合併症の心筋炎や、Enterovirus71 のような髄膜炎は少なそうですが、注意が必要。

2. 検査所見

- 1) 一般検査で特徴的異常はないようですが、末梢血に異型リンパ球が少数出現するかもしれない。
- 2) ウイルス学的検査では、Coxsackie A6 が分離・検出される（半数以上）。
- 3) 抗ウイルス抗体：Coxsackie A16 に対する抗体が陽性（全例かどうか不明）。
検査キットや検査会社によって異なるかもしれませんが、手足口病の原因として多いCoxsackie A16 抗体が陽性と報告されるようです。しかし、通常のA16 による手足口病と比べて激しい反応で、これが原因ではない可能性が高い。
- 4) 重症型手足口病の病因がCoxsackie A6 が関連しているかどうかの検証が必要。
- 5) 血清学的にはCoxsackie A6 とA16 が交差反応を起こす可能性あり（推測）。
- 6) A6 型が強い病因性を有するのか、通常型（A16）の既感染患者にA6 型が感染すると激しい免疫応答（臨床症状）を起こすのかなど、謎が多い（私見）。